

関 雅夫さん（平成 23 年 5 月）

## カサブランカ便り「エルジャジーダでの講道館古式の形演武」

拝啓、時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。JICA21-2次隊の柔道SV（シニア海外ボランティア）の関 雅夫です。2011年4月23日（土曜日）に私の赴任地ここカサブランカより西へ電車で約1時間程の海沿いに有る町、エルジャジーダで行われたモロッコ王国国内個人戦・団体戦のモロッコ王国柔道大会会場で「講道館古式の形」を演武致しました。今回はこの時の様子等をレポート致します。

このレポートの前に、少々お時間を頂きまして一世紀以上前に行われた日露戦争終結後の東郷平八郎聯合艦隊司令長官の戦時に編成された聯合艦隊解散の辞の最後の部分を紹介致します。



「神明は唯平素の鍛錬に力め。戦わずして既に勝てる者に勝利の栄冠を授けると同時に一勝に満足して太平に安んずる者より直ちに此れを奪う。古人曰く勝って兜の緒を締めよと。」と有ります。即ち如何に平素の鍛錬が大切か、平素の鍛錬が出来ていないと戦場では戦えないと言う事で有ります。試合等に限らず、平素の訓練・鍛錬を遣っていないと急に試合等で使える物では無いと思っておりますので冒頭にこの金言を掲載させて頂いた次第です。この東郷平八郎聯合艦隊司令長官よりの聯合艦隊解散の辞の最後の一節を心に留め置き頂いた上で私のレポートを読んで頂きたく宜しくお願い致します。

柔道の修行には大きく分けて乱取り稽古（自由にお互いに技を掛け合う練習方法）・形の稽古（柔道の作りと掛けを決まった手順で柔道の技の理合いを体得する練習方法）・試合（柔道を修行しているお互いが其の成果を試す真剣勝負）が有ります。しかし近年の柔道の試合が自然体から体捌きに依る崩し（相手を崩す事）と掛け（崩して相手に柔道の技を施す事）の理合い等丸で無視するかの様に、お互いに腰を引いたりして無理な体勢から技を施す等柔道本来の自然体からの体捌きに依る柔道とは懸け離れる傾向が顕著になり、オリンピックでもラグビーのタックルの様な技が横行する等柔道だか何だか解らない様な状況も散見される様になって来ました。

この傾向に歯止めを掛け柔道本来の自然体からの相手を崩して技を掛ける。そして柔道本来の眼の覚める様な一本を目指す、その様な本来の柔道をやろうとする動きが顕著になって参りました。（一例として此の様なラグビーのタックルの様ないきなり試合相手の足を取る技は即反則負けが適用される事となりました。）この事は元々の柔道の柔良く剛を制すとの柔道本来の魅力が東京オリンピックで怪力のヘーシンクに無差別級で日本の代表選手神永が敗れ、柔道から重道への変貌となってしまう又当時軽量・中量・重量・無差別の四階級だけだったのが現在では同じ体重の双方が戦うのが至当で有るとのレスリングの影響で八階級にも分かれております。

そして現在では鬼の木村政彦先生が言われておりましたが、「豚が柔道を遣っている。あんなのは柔道では無い。」と酷評されるような大きな者が力に任せての取っ組み合いの様なケースが多々見られる事となり、柔道だか何だか解らない様になって参りました。

これを是正し本来の柔道の姿に戻す為に柔道の作りと掛けの理合いを学ぶ講道館の各種の形の稽古が近年見直され・重要視される様になって参りました。全日本柔道形選手権大会の催しや世界マスターズでの柔道形選手権大会等は正しい本来の柔道を行おうとの現れです。モロッコ王国柔道連盟でも世界の趨勢に同調しており、私はこの形の演武依頼をモロッコ王国柔道連盟会長である、ベンバッドさんより拝受致しました。

関 雅夫さん（平成23年5月）



ベンバッドさんとの打ち合わせで講道館の形として現在正式に制定されている七つの形(投の形・固の形・柔の形・極の形・護身術・五の形・古式の形)の内より「古式の形」を今回演武する事になりました。此の形は柔道の創始者嘉納治五郎先生が柔術起倒流の古武士が戦場で鎧・兜を装着して行う白兵戦の戦いの形を略りそのまま講道館柔道の古式の形として制定されたものです。表14本・裏7本の合計21本が有ります。

演武当日モロッコ王国柔道連盟の方の運転する車で早朝駅まで送ってもらい、途中で親しくなったモロッコ王国の大学の先生と一緒にエルジャジダの駅に着きました。すると学生が一杯黒山になって目の前にいます。この大学の先生を待っているのかとカラスの勝手な思いとは裏腹に、我々が電車から降りようとする、目の前の黒山の学生連中が先を争って我々が電車を降りようとする事等一切無視して乗り込んで来ます。日本だったら降りる人が先で乗る人が後と言うルールが守られておりますが、ここモロッコエルジャジダではこの有様で凡そ五分間位乗り降りのドアの端で我先に乗り込んで来る学生の群れを凌いでおりました。

そしてプチャクシー(大きいのはグランタクシーと言います。)を拾い漸く私が古式の形を演武する道場に到着しました。先ず試合場を見て驚いた事にはなんとここでも試合開始の青と白の開始線が貼っておらず、(主審の右側が青・左側が白となり畳二枚の間合いで規定の大きさ・長さの開始線を設置する決まりになっております。)モロッコ王国の柔道試合場で私が見た範囲では、柔道の試合の試合開始線が貼って有った試が無く、どうせ今回もこんな事だろうと健康診断一時帰国の際に私が用意して船便で送った規定の大きさの青と白のガムテープを本日も持参しており、これを規定の位置に貼り付けました。(モロッコ王国の柔道試合場にはこの開始線が驚く無かれ貼って無い為、私が出席する柔道の大会は何時も私が責任を持って貼っております。如何も武道で大切な間合いの概念がここモロッコ王国柔道連盟にはイスラム教の影響だか何だか解りませんが無きに等しい様です。)私が遠路遥々用意した日本のガムテープはとても優秀で、私の試合の途中で剥がれたりするのではないかと心配を余所に終日ドタンバタンやる試合場内に於いて多少柔道マットの境目で切れたりしたものの確りと貼り付けておりました。モロッコのテープは薄くてチャチで直ぐ剥がれてしまいます。

又、モロッコ人の殆ど(モロッコ王国総人口の99%と聞き及んでおります。)がムスリム(イスラム教徒)で一日五回もアッラーにお祈りをする割には路上に色々なゴミをポイ捨てしたりする人が多く、柔道の試合場でもゴミが散見されて困ったものです。モロッコ人が普段何気なくゴミを路上にポイ捨てにする等遣っている事が此処エルジャジダの試合場でも見られたのは残念な事です。

又畳の上に土足で上がって来たりする試合場関係者も散見され、その都度此処は神聖な道場だ、靴を履いたまま上がっては駄目だと注意しました。私が巡廻している道場でこの様な不躰な輩を見つけた場合は日本語で「馬鹿野郎ここは道場だ、靴を脱げ。」と怒鳴っております。これで結構通じるから不思議な物です。

いよいよ試合が開始されました。試合が始まりますと口笛等々や応援の声で盛り上がります。しかし肝心の柔道の試合内容を見ますに、私の事を指導して頂いた今は故人となられた柔道十段小谷澄之先生のお言葉に「柔道は自然体で遣らなければならない。自然体から正しい作り(相手を崩す事。)と正しい掛け(自分の技を相手に掛ける事。)が出来る。自然体で遣らない柔道は相手に対してご無礼だ。」と言っておられました。このお言葉とは裏腹に試合者の姿勢を見ますと数多くの試合者が前屈した自然体とは程遠い姿勢から無理な体勢で相手を十分に崩さずに技を掛けており、掛け逃げの反則を取られたり自滅したりしておりました。



関 雅夫さん（平成23年5月）

やはり勝ち続ける為には、全日本選手権大会を9連覇もし、ロスアンゼルスオリンピック大会の金メダリストでもある山下泰博選手の様子に正しい姿勢からの正しい作りと掛け、これが必要だと思います。邪剣は一時的には勝ち進む事が出来てもやがて敗れ去るとの剣豪宮本武蔵の言葉の通りだと思います。宮本武蔵は又世々の道に背かざる事とも言っております。幾等剣の達人でも気が狂って自分の妻だかを殺してしまった剣豪の話聞いた事が有りますが、世々の道に背かず勝ち続けて行く正当性を持った戦い方、自然体の柔道こそが正当性なる柔道で有ると私も信じております。自然体で脇を閉め、体捌きで相手を崩す。今回の世界ジュニア柔道選手権大会でも自然体からの正しい作りと掛けから施す眼の覚めるような綺麗な一本勝ちは数多くは有りませんでした。

それから、亀と言って亀の様子にうつ伏せで固まって防御している相手に対する対応の拙さも目立ち、もっともっと作家井上靖の著書「北の海」に書かれている高専柔道の様な寝技習得の必要を感じました。審判員に付いても世紀の大誤審と言われたシドニーオリンピックでの篠原選手とフランスのドゥーイエ選手の試合で、主審が篠原選手の内股透かし、綺麗な一本を一本と取らずに逆に相手のポイントにしてしまった事が有りましたが、そこまで行かないまでも場内で遣っているのに「待て」を掛けたり(何回も何で「待て」)を掛けるのか？と疑問に思いました。)挙句の果てには「待て」の取り消しが審判規定に無いのに「待て」を取り消して一本と言う等々色々問題の有る審判員も散見されます。女性の審判員も数は男性審判員に比較して数名と遥かに少ないですが、彼女達は堂々と審判をしておりました。

それから大きな問題だと私が感じた事の一つに人生の戦いの中に生きて行く武人・武道家・柔道家に取って一人で遣る柔道は限り無く孤独な自分との戦いで有ると同時に、同じ世界の様々な柔道家・柔道人と拘わって来る。柔道は自分との孤独の戦いで有ると同時に相手がいなくては勝負・試合・乱取り等が出来ないので有るからお互いに相手を尊重する礼がキチンと出来ていないと拙い事は自明の事である。

今回の大会でも試合場に入る前に軽く礼をし、お互いの礼をして、左足・右足と出て主審の「始め」の発声で試合が開始され、主審の「それまで」の発声で試合終了後主審の勝敗の宣告後に右足・左足と下がって一礼をし、試合場を出る時に軽く一礼する動作がキチンと出来ていた試合は数少なく、武道としての柔道の衰退を危惧しました。負けて試合場に座り込んでしまったり、大の字みたいになってみたり、頭を抱えてうずくまったり、etc・etc。

何かの歌の文句にも有りました。「勝った・負けたと騒ぐじゃないぜ、後の態度が大事だぜ。」とまあ、この様にまだまだ審判員・選手・試合場の設置・その他諸々の問題と反省すべき点が数多く見られ、モロッコ王国柔道連盟会長その他諸々の師範連中に色々働きかけておられますが、なかなか改善されません。困ったものです。やはり勝ち続けて行く為には邪剣に頼らない柔道、正しい自然体からの体捌きに依る正当性なる柔道の追及と寝技の習得が今後の課題だと思います。

最後になりますが人生はある意味で戦いの連続なのかも知れません。オリンピック競技にしても槍投げ・砲丸投げ・射撃・マラソン(戦場からの伝令)・柔道・etc・etc戦闘・戦場での戦いを競技化した物であります。これ等競技の中に有って柔道は日々の戦いの中でお互いを共に精力善用・自他共栄の哲学的境地に迄高め、追求した日本が世界の誇り得る武道で有ります。



そして松下幸之助が商道の神様と言われるのは何も松下幸之助が金を儲けたからでは無く正しい商いの道、正しい金の使い方を知っていて、これを実践したから尊敬されるので有ります。柔道もこの戦いの中に有って精力善用・自他共栄の道として続けて行かなければ、即ち正当性を持った武道として遣らなければ、冒頭に掲載させて頂きました東郷平八郎聯合艦隊司令長官よりの聯合艦隊解散の辞の様に

関 雅夫さん（平成 23 年 5 月）

天が柔道を衰退へ追い遣って行くものと危惧致しております。

正しい柔道・正当性を持った勝ち続ける柔道、自然体からの合理的な体捌きに依る作りと掛け、そして寝技の習得、又審判技術の向上等々課題山積では有りますが、焦らず・慌てず・諦めずに精進・努力する事こそが、又生きて行く上での戦いの連続の中に有って、お互いが幸福になれる様にとの哲学的境地迄迫及する事こそが、柔道の発展、果ては世界の平和と繁栄、精力善用・自他共栄の柔道の創始者師範嘉納治五郎先生の目指した、大東亜戦争の始まる直前にオリンピックを東京に招致した精神に繋がるものではないかと思料する次第です。この事を私也に色々と考えて、奉職させて頂いておりますここモロッコ王国に於いて、主として赴任地で有りますここカサブランカの巡回指導させて頂いております道場等々に於いて焦らず・慌てず・諦めずに精進・努力して指導しております。



さて、エルジャジーダでの試合も大分進みよいよ今回のテーマで有る「講道館古式の形」を演武する私の出番が参りました。この形は私がここモロッコ王国カサブランカに赴任し、一緒に教えている師範の中でインターネットでこの「古式の形」を勉強して来たと言うバンサ・アリと言う偉い師範が参りました。

一人でインターネットで私が講道館で六回程試験を受けて漸く合格した柔道八段の試験科目にもなっている「講道館古式の形」をたった一人で勉強する事等なかなか出来ない事です。此の師範と偶々私の勤務先で有るモハメッドサンクナショナル道場で巡り合い、私が一年以上手塩に掛けて育てて来ました。この師範に貴方はモロッコでナンバーワンで且つオンリーワンだと褒めるととても嬉そうな顔をして私の事を「貴方は私の先生だ。」と言って道場の指導の帰りに車で私のマンションまで送ってくれます。

このアリさんと今回のテーマで有る「講道館古式の形」を先にカサブランカでモロッコ王国中から集まった柔道連盟の師範達の前やボランティア家族視察の旅での道場等何度かこの古式の形を演武して参りましたが、今回の様な約一千人以上はいるのではないかと思われる大観衆の前での演武はお互いに始めてでした。

しかし私と一緒にこつこつと平素の鍛錬をしてきた「古式の形」の稽古が功を奏して無事に演武する事が出来ました。お互いに正しい自然体で、この自然体からの体捌きに依る作りと掛け、柔道の魅力の一端をここモロッコの地でそれも大観衆の前で「古式の形」を演武出来た事は望外の喜びで有りました。

私を取り(技を掛ける側)・アリさんが受け(技を掛けられて受身を取る側)で演武を行いました。柔道八段の昇段試験科目にもなっております「古式の形」等始めて観る柔道選手・柔道関係者・見学者が殆どの様で我々の演武の最中に大歓声が挙り又此の「古式の形」の終了直後に大観衆からの盛大なる拍手を頂きました事は誠に光栄の至りで有りました。今後も日本傳講道館柔道の正しい発展に尽力すべく、自然体からの正しい作りと掛けの理合いを私の赴任地ここモロッコに根付かせる努力を厭わない勇気を頂き感謝の極みで有りました。

さて、試合の合間にムスリム(イスラム教徒)が試合場脇の空いている場所等々で三々五々アッラー(神)への祈りを奉げておりました。(モロッコ人の殆どがイスラム教徒で、日の出前・朝・昼・夕方・日没後と一日五回のお祈りを奉げます。お祈りの時間は各人諸般の事情が有るのでそんなに厳格では有りません。小さい子供はお祈りをしない等柔軟性に富んでおります。)

それでは皆様様に於かれましては何卒お体ご自愛の上元気で過ごして下さい。

ここ赴任地カサブランカより皆様のご健康とご健勝とを願っております。皆様お元気で、敬具